

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立袋井特別支援学校 磐田見付分校 P T A					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input type="checkbox"/> 小学部	<input type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	47人				

1. 使用状況

寄贈物品名	和太鼓
使用学年及び人数	高等部1～3年、計47人
使用頻度	全学年、主に1学期(週1回)の音楽の授業で使用
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の器楽の授業を中心に和太鼓の演奏に取り組んだ。 ・1学年では和太鼓の扱い方と簡単なリズム演奏、2,3学年では締め太鼓と長胴太鼓を用いて合奏の単元に活用した。 ・どの学年でも和太鼓の取り扱い方について予め教師間で共通理解を図り、生徒へは丁寧に扱うよう組み立て方や運び方などの指導を行った。 ・2,3学年については単元の終わりに発表会を計画した。グループに分かれてリズム創作や楽曲の構想を工夫し、和太鼓の楽曲演奏に取り組んだ。
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒達は、自分たちのために和太鼓が寄贈されたことを知り、喜びや驚きを口にしていた。 ・太鼓の革や木の性質などについて、実物に触れる感覚を楽しみながら学ぶことができたことで、和太鼓への関心や練習に対する意欲が深まっている。 ・6月には、創作和太鼓の演奏グループ「瑞宝太鼓」による音楽鑑賞会を行った。数名の生徒と演奏メンバーの合同の練習会を体験したり、プロの生演奏を鑑賞したりした。授業の中で実際に和太鼓の学習に取り組んだ経験があったことで、演奏会後の感想には「あんなに長い時間力強くたたくことができ、さすがプロはすごい。」「音に迫力があってカッコいい。」と、鑑賞への姿勢に前向きな様子がみられた。
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も年間の授業計画に全学年の器楽の授業の中で和太鼓の学習に取り組む。 ・楽器の保管方法やメンテナンスの面においても、教師や生徒が管理しやすい方法を確立する必要がある。
その他希望や所感など	和太鼓は、地域の祭典等に参加した経験のある生徒もおり、幅広い年代に親しまれている楽器である。今後の展望としては、和太鼓の演奏に継続的に取り組み、地域との交流活動のきっかけとしても活用していきたいと考えている。

2. 活用の様子



最後のポーズを考えている場面



単元の最後に発表会を行いました。



発表の後には、聴きに来てくださった職員と一緒に基本リズム打ちを行い、コミュニケーションをとりました。



6月の和太鼓演奏会の様子
(かたりあにて)
全身に響く迫力に圧倒されました。